

令和6年度地域貢献プロジェクト事業報告書

キャンパス名 函 館 校
代表者氏名 細 谷 一 博

プロジェクト名	サマースクール in 函館
プロジェクトの概要	<p>■実施時期:2024年7月下旬～8月上旬(サマスク:8月4日～8月7日)</p> <p>■実施方法:活動の企画・運営は全て学生が主体的に実施するが、大学教員は、全体説明会や個別ミーティング、学習会、教材作りなどの講義と演習を通して、学生の障害理解及び実践力を培う。本授業の実施に伴い、附属特別支援学校教員、社会人ボランティア(現職教員)は活動実施をサポートする。学生は障害理解、保護者との連携、障害児支援方法など、体験を通じた実践力の基礎を養い、実行力を身に付ける。同時に、参加学生の社会的視野の拡大、自己発見などの契機になることを期待している。なお、実施における打合せは、前年度の11月より実施し、教材作成においては、7月中旬から実施する予定であり、障害のある児童生徒の個々の教育的ニーズに応じた教材を学生が個々に作成し、実際の活動の中で活用する。なお、幼稚園ブロックを開設したことにより、市内の幼稚園に在園している特別な教育的ニーズのある年長児が参加し、小学校へのアプローチカリキュラムの一環として実施した。</p> <p>■実施場所:函館市立八幡小学校、函館市内の公共施設</p> <p>■参加者:参加幼児児童生徒20名、学生Bo.84名、社会人Bo.21名 高校生ボランティア5名</p>
地域・学校・子ども等に還元した成果	<p>本活動は28年目を迎え、函館市における余暇活動支援機関として北海道教育大学函館校のサマースクールが認知されており、函館市教育委員会や北斗市教育委員会、七飯町教育委員会が後援となり、本活動の資料の配布などを行っていただいた。さらに学校教育現場においては、放課後等児童デイサービスの拡大に伴い、参加者が減少傾向にあるが、福祉行政サービスを利用するに至らない市内の小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒が参加していることから、彼らの余暇活動の充実の一端を担っていると判断できる。また、今年度も幼稚園ブロックを開設し、市内の特別な教育的ニーズのある年長児が、就学に向けて小学校体験を実施したことにより、特別な教育的ニーズのある幼児にとって就学先である小学校という環境を体験することができた。</p>
学生資質向上・教職資質向上のために果たした成果	<p>本活動は、国際地域学科(地域教育専攻や地域協働専攻)の学生が小学校や中学校、高等学校、特別支援学校の教員として現場に出る前に障害のある児童生徒と触れ合い、通常の教育における特別支援教育の重要性について学ぶとともに、子どもを理解するということの重要性について経験することができた。特に地域教育専攻の学生にとっては、この活動を通して、子どもを理解することの重要性と実態に応じた教材作成、保護者との連携の重要性について学ぶことができた。これらの経験から実態把握・活動計画の作成・教材の作成・保護者連携などについて、教育現場で活用できるスキルを学ぶことができ、本活動を経験した学生が、教員として各地で活躍しており、本活動で得た知識や経験したことを基盤</p>

	<p>としながら、教育実践を行う事ができる。</p> <p>これらの成果については2024年12月刊行の「サマースクール2024in 函館実施報告書」に詳細を記載している。</p>
<p>キャンパス及び 大学への貢献</p>	<p>本プロジェクトは、今年度で28年目を迎える活動であり、教員養成時代から継続してきているプロジェクトである。また、本活動を経験した学生の多くが教員として北海道・東北を中心に活躍をしている。今年度は本活動の実行委員として携わった4年生（13名）中、10名が4月より学校教育現場（小学校6名、特別支援学校4名）で勤務を予定している。</p> <p>さらに本活動は函館校の地域貢献事業にも位置づいており、毎年、市内の高校生が参加しており、参加した高校生が本学に入学してきている。今年度は5名の高校生（中部高等学校1名、市立函館高等学校3名、遺愛女子高等学校1名）が参加した。この意味でも本プロジェクトがキャンパスに大きな影響を与えていることが分かる。また、本学附属特別支援学校の児童生徒も参加しており、大学と附属が共同で行っている事業として位置づけることができる。</p>

※プロジェクトに関係する資料がある場合は、併せて提出してください。

■サマースクール2024in 函館実施報告書（2024年12月31日刊行）